

2019年7月4日

■サウジアラビアが上場企業の外国資本上限を緩和

九門 康之

<外国資本保有上限を緩和>

サウジアラビア資本市場庁（Capital Market Authority, CMA）は6月26日付け同庁ホームページで、「適格外国金融機関（QFI）の上場株式投資に関する規則を修正し、戦略的投資家が希望する場合、CMAは49%の保有上限を含む規定の適用を緩和することができる」と発表した。

同国は2015年に外国人投資家による国内上場企業への投資を認めて以来、国外からの投資資金呼び込みを進めている。今年4月には、タダウル（リヤド証券取引所）がFTSEエマージング・マーケット指標に組み込まれており、上記の規則修正は一部の企業への投資が集中した場合への対応として発表したものと思われる。

<タダウル証券市場>

タダウルの活動は1990年代に始まっている。その後2007年にサウジアラビア唯一の証券取引所として認可され、現在は、サウジアラビアのSWFである公共投資基金（PIF）の傘下にある。活動の内容は2003年の王令M30が定める証券市場法（The Capital Market Law, CML）が規定する。

タダウル証券市場は、2000～2004年に原油価格上昇を背景として活況を呈した。2003年のイラク戦争により取引が低下、2008年のリーマンショックの影響から更に低迷した。その後、原油価格の回復により徐々に取引が活発化したが、2014年後半以降の原油価格低下の影響を受けている。直近は、原油価格が堅調なこと、およびサウジアラビアの市場開放施策により再び活発な取引が行われている。

<サウジアラビアへの証券投資>

サウジアラビアは2015年に外国人投資家に同国証券への投資を解禁した。それ以前は、国内もしくはGCCの投資家に限られていた。投資の流入は2017年に217億ドルと過去最高を記録、2018年は134億ドルの実績であった。

同国の金融収支（ポートフォリオ投資）をみると、サウジアラビアが活発に国外証券投資を行ってきたことが分かる。過去のピークは2004年の267億ドル、2014年の270億ドルで、2018年にも200億ドルの対外証券投資を行った。同資金の流れは原油価格で得た資金の国外への還流という色彩が強い。近年のサウジアラビアへの証券投資の増加によりポートフォリオ投資の収支は均衡に向かっている。

<ビジョン 2030 との関係>

国家戦略ビジョン2030の中で、「世界に向けて開かれた最先端の金融資本市場を確立し、資金調達機会の拡大と経済成長の促進を進め、株式市場における投資取引を長期目線で活性化させる」と述べている。同ビジョンは、開かれた資本市場は、資産管理、資金調達、投資のリーダーとなる上で必要なインフラであると位置づけている。

今回のCMAによる規則緩和発表は、ビジョン2030を実現するための一つのステップと理解できる。今後のサウジアラビア債券市場の拡大に注目したい。

(以上)